

# 中日新聞

# 富士山

世界文化遺産登録1年



▲▲3

## 多い登山者 規制難航

「上で誰かがひっくり返ると落石が起きたり、巻き添えになったりする恐れもあった」。世界文化遺産登録後の昨年八月の週末、ご来光目当ての富士登山の列に加わった湖西市新居町の男性会社員(六巴)は、登山者が数珠つなぎになった登山

事故も増え、昨年一年間で九十八件(前年比四十二件増)、事故者は百六人(三十六人増)と過去最多となった。こうした中、今夏の静岡側の三登山道の開山期間は前年より一日短い六十三日に決まった。逆に利用が最も多い山梨側の吉田口は登山者の実態や要望に合わせる形で十二日長い七十六日間と、対応が分かれた。静岡、山梨両県はこの一

年、入山料(保全協力金)や開山時期の調整に迫られた。国連教育科学文化機関(ユネスコ)の世界遺産委員会は登録に伴い、富士山の環境と保護を考えると、登山者が多すぎると指摘。一六年二月までに対策を報告するよう求めたが、本格的な検討はまだ始まっていない。国、県の土地、民有地が混在し、富士山が誰のものかという問題がある」と山梨県富士山保全推進課

の担当者は話し、一体的な規制の難しさを指摘する。両県は今夏、登山者がどの時間に、どこに集中するかを調べる。調査結果をもとに指標を設けて混雑の緩和を図るが、登山者の適正人数は当面設定せず、分散させる考えだ。

「登山者は二十万〜二十五万人が適当だ」。都留文科大(山梨県都留市)で富士山の歴史や文化、景観問題などを富士山学として教える渡辺豊博教授(六巴)は二十五万人を前提に導入されたバイオトイレの処理能力や、この水準で山小屋の営業が成り立つことを根拠に、入山規制を求めた。

ユネスコの「宿題」への回答期限まで二年を切った。渡辺教授は「きちんとした保全状況報告をしないと、登録抹消の可能性もある」と指摘する。

(河野貴子)



列になって山頂を目指す登山者  
|| 昨年8月10日、富士山の富士宮口登山道で(山森保撮影)

**富士登山者の管理** ユネスコ世界遺産委員会は、多くの登山者が登山道を侵食し、山小屋に多大な負荷を与え、神聖な雰囲気にも負の影響を与えていると指摘。登山者の管理戦略を保全状況報告書にまとめ、提出するよう求めている。